

# ばってん

事務長会報第26号

平成21年10月1日

長崎県公立学校事務長会

長崎南高等学校内  
〒850-0834 長崎市上小島4-13-1  
電話 095-824-3134



ホテルモントール長崎  
TEL 095-822-2251  
長崎市筑後町4番10号

## ウルウルウル



副会長(佐世保工業高等学校) 志水 信吉

佐世保工業高等学校に赴任して、早1年半が過ぎてしまいました。

二十数年前に結婚して以来、幸か不幸か異動に伴って引越すこともなかった我が身に、単身赴任という辞令を妻から渡されたのがつい先日のことのように思えます。

今では、学校から一人では広すぎる教職員住宅に帰り、風呂に入ってテレビを見ながら、時には？晩酌というワンパターンの生活を送っていますが、それはそれなりに楽しいものです。(単身赴任を経験された方、現在経験されている方、納得ではないでしょうか。)

ただ、五十歳代後半の男が一人でテレビを見ながら泣いたり笑ったりしている様は、あまり見られたものではないかもしれません。特に、年を取ると涙もろくなるというのは本当のようです。

学校の中においても、涙腺がゆるむような出来事がよくあります。

もう1年半前になりますが、平成20年4月、本校定時制において、入学式当日に入学手数料等を納めなかった生徒2名に対して、学校として式への出席を認めないという対応をとりました。

新聞等でも大きく取り上げられましたので、皆さんも記憶に残っているかと思います。

県教委への報告や報道関係者への対応など大変忙しくしている状況でしたが、そのような中で、目頭が熱くなった校内での三つの出来事を紹介します。

一つめが、校長が二人の生徒に対して話された時の言葉です。

「君達には大変辛い思いをさせてしまった。これからは、いろいろ辛いことがあると思うが、負けないで頑張ってくれ。」

生徒は、小さな声でしたが、しっかりした声で「はい」と答えていました。

二つめが、校長が全校集会で全校生徒に対して話され

た言葉です。

「この中に、入学式に出席できなかった生徒がいるというのは君達も知っていると思う。しかし、必要な手続きを済ませて、今は君達の仲間になっている。仲間であるという気持ちを強く持って仲良くして欲しい。」

生徒は静かに聞いていました。校長の声が生徒の体の中に浸透しているようでした。

三つめが、職員会議での一職員の発言です。

「校長が選択した判断は入学式前に聞いたが、その場での反論は誰もしなかった。我々は、今回の校長がとった一連の措置を、一致して支持しなければならない。」

職員の中に一体感が感じられた瞬間でした。

今、三つの出来事として紹介した校長や職員の言葉には、当然前後の言葉があるわけですが、校長の生徒に対する愛情や職員の学校を何とかしようという熱意が伝わってくる感動の一場面でありました。

それぞれの場面で、目が涙でウルウルウルとしていたことを思い出します。

入学式に出席できなかった生徒も2年生になり、学校生活を楽しんでいるように見えますし、授業料や学校諸費も納入されているようです。

校長の苦渋の選択も良い方向に進んでいます。

今年の3月には、授業料の滞納を理由に卒業証書授与を保留することに関しての記事が新聞に載りました。

入学を許可するにしても、卒業を認定するにしても、どこまで教育的な配慮が必要なのか。そして、生徒に対して教育的な配慮をした結果がどうなっていくのか。

少なくとも生徒本人が、20年後、30年後に、配慮してもらったことに対して、感謝の念を持ってくれることを切に願います。



## 『育てる』と『育てられる』

盲学校 増山 良明

### ◆自分を育てる

私が初めて事務長になった時、何をすればいいのかわからず分からない状況でした。高校での事務職員の経験もなく、事務長の仕事を見たこともなく、高校の年間スケジュールも分からないままスタートしたのです。目の前にある仕事を処理することで、考える余裕もなく数ヶ月が過ぎていきました。その間、漠然とした不安を抱えながらの毎日でした。そのため、少しでも時間があれば引き継いだ文書綴を見て、内容の確認をしていました。事務長の仕事は継続性があることが分かり、前年の文書を見ておくと参考になり、仕事の内容も分かりました。毎年同じ時期に同じ報告書や調査があることに気づき、年間のスケジュール表を作成し始めました。また、PTAとの関係は、事前の連絡調整や資料の作成等にも分からない状況での手探りの1年でしたが、2年目はこのスケジュール表が役立ちました。仕事の予定や予測が立てられたので、少し気分が楽になり、仕事の計画も少しずつ考えられるようになりました。2年目からは内容の修正や追加をし、その結果がマニュアルとなりました。

### ◆自分を律する

初任校で少し落ち着いた頃、「事務職員の勤務状況を見るのは事務長だが、事務長の勤務状況を見るのは誰なのか」と思いました。考えた結果、誰もいないことに気づいたのでした。校長は事務室にいつもいるわけではないのです。事務長の勤務状況が悪いと、事務職員を指導しても説得力がないし、指導できません。また、事務職員はなにも言いませんが、日頃事務長の仕事をよく見ています。つまり、事務長を管理するのは、事務長自身だけと気づいたのでした。

### ◆先輩事務長から教えられたこと

また、地区の事務長会等の会議に出席すると、多くの協議が行われます。各校事務長からの質問や疑問に対して、多くの意見を聞くことができます。また懇談会での会話も大変参考になります。先輩事務長と親睦を深めることが、困った時に意見を聞きやすいのです。こちらが謙虚に聞けば、今までの経験から様々な考えや意見を聞くことができます。それらを参考にして、自分の考えを

整理することが勉強になりました。また、会議や懇談会での先輩事務長さんの心構えや生き方についても聞いたり見たりしたことが、事務長として仕事をする上での手本になりました。

### ◆記録すること

相手に何かを伝える時、様々な方法があります。言葉だったり、文章だったり、メールだったりです。事務の仕事の場合、報告や連絡事項は多く発生し、内容も様々で、緊急なものや重要なものも含まれます。しかし、多くの事務職員が「言葉」で報告することが多いのです。報告する方は頭の中で整理して話せばいいのですが、思いつきのまま言いたい事から先に話します。聞いた方は、その時は分かたつつもりでも後で考えたら分からない事が多いのに気づき、再度聞くことになります。いつなのか、当事者は職員なのか生徒なのか、緊急なのかどうか等です。そして記録に残らないため、別の相手に伝える時困る事が多いのです。まず、確認した事を自分の頭の中で整理し、1枚の文書として作成させる。すると、客観的に内容を確認でき、分からない部分も分かり、補充できます。また、文書にすると多くの職員に1度で同じ内容を伝えることができるのです。このように指導することで、客観的に判断できる事務職員を育てることができると思います。

### ◆自分ですることとさせること

一つの業務を職員に教えるのはなかなか難しいものです。「自分がした方が早い」とついつい手を出してしまいます。しかし、これでは教えられる方はなかなか覚えられません。自分でしていないのですから、本当には分かっていないのです。見て分かたつつもりでいるだけなのです。これに対し、教える方は教えた事に自己満足し、「何回教えても覚えられない」と相手に駄目出しをするのです。手を出してはいけないのです。相手にさせ、考えさせることが大切です。じっくり待つのが必要なのですが、私もこの我慢がなかなか出来ないのです。

今思えば、先輩事務長から教えられた多くの事の半分も後輩事務長に還元できなかったと思っています。また、事務職員を育てることも不十分なまま残り約半年となりました。

最後に、お世話になった先輩事務長への感謝と現事務長会の皆様にお詫びとお礼を申し上げます。

## ウチのここがすばらしい

### 『猶興』の精神

猶興館高等学校 下田 幸俊

赤い平戸大橋を渡ると直ぐ右側に「白亜の校舎」が見える。猶興館高等学校は、南側に平戸瀬戸を臨み、北側に平戸城を囲むように鬱蒼とした森があり、その上に整然とした平戸城（亀岡城）の天守と見奏櫓の屋根が見える風光明媚な旧松浦藩平戸城敷地の中に立地している。

猶興館高等学校は、旧平戸藩第37代藩主「松浦詮（まつらあきら）」公によって、1880年に旧藩子弟教育のための猶興書院として設立されたのが開校とされ、来年度創立130周年を迎える県下でも有数の歴史と伝統をもつ学校である。

校名「猶興」の由来は、『孟子』巻7、尽心章句上にある、「孟子曰く、文王を待ちて後に興る者は、凡民な

り。夫（か）の豪傑の士の若（ごと）きは、文王無しと雖（いえど）も猶（な）ほ興（おこ）る」から採っている。解説すると、「文王（中国・周時代の天子）の教えに従って、奮い立つ者は、平凡な力量しかない人である。才知や徳のある豪傑の士といわれるほどの人は、他に頼ることがなく、文王の教えがなくても、自発的に立ち上がって善を行うことができる。だから道を学ぶ者は豪傑の士となるように努めなければならない。」と、自立自発の考えを説いた孟子のことばである。これを一つの校風として代々後輩達が引き継いでいる。

また、「猶興出典」と称して卒業式や体育祭の学校行事の際に行う全校生による口上は古くからの伝統であり、荘厳な趣である。

さて、本校は県北地区唯一の「理数科」が設置されており、様々な学習活動を行っている。特色の一つとして、SPP（サイエンスパートナーシッププログラム）事業へ取り組んでいる。文部科学省の補助により、大学・研究所と高校が、実験・観察・体験を重視した連携



を行い、科学技術の最先端分野で活躍している人の熱意に触れる機会を充実させることを目的とした事業である。

具体的な活動（20年度参考）としては、長崎大学、佐賀大学、九州大学、鹿児島大学等による出前講義や各大学（研究センター等）の施設設備見学、及び天体観測などの各種の実習体験等をふまえて、レポートによるまとめと発表会を実施して、全国大会の研究発表会へも参加している。（20年度は優秀賞を受賞）

特色ある学校行事としては、4月の歓迎遠足時の連風揚げである。目的地の川内峠で各クラスで作成した連風が一斉に揚がっている様子は、草原と大空という大自然を背景にした一大パノラマで、誠に壮大な景観である。また、体育祭の女子競技の中に「メイボールダンス」があり、ボールに紅白の布を踊りながら編み込んでいくもので、昔の女学校時代からの伝統種目である。これにあこがれて女学校に入学したという逸話も残っている。紙面の都合で詳しくは紹介できないが、特色ある施設と

して「猶興史料館」があり、旧藩時代の甲冑から明治・大正・昭和時代の書物や多くの写真等を展示している。



## 『後継者育成の現状と課題』

～ 九州地区事務長会発表原稿より抜粋 ～

佐世保中央高等学校 山本公一

### 1 職場外における研修の現状

#### ① 県教育委員会・出納局研修について

長崎県の県教委研修では、初任から5年目までを中心に25年経過研修まで体系的に研修プランを組んで人材育成を図っている。最近、酒気帯び運転やわいせつ行為による不祥事が相次いだこともあって服務規律研修にも力を入れているが、財務関係の専門的な実務研修は行っていない。財務関係の研修は主に出納局が担当しているが、新任研修と会計事務担当職員研修のみであり、参加者も一校一名と制限されているので、直接研修を受けられない職員もいる。直接研修を受けられない職員に対しては研修会の資料等を回覧・配布するなどして対応している。物品取扱規則を初めとする関係規則の改正が相次いだこともあって、未消化のままついていけないという状況も生まれている。

#### ② 事務職員協会等研修について

平成18年度から研修部・O A部・広報部と三つの専門委員会を設置して各種研修を実施している。また、各支部等でテーマ別に協議し発表することにしており、業務に直結した研究を行っている。事務長会も総務・研修・調査・広報と4部の専門部を設置して、会の運営・調査・研究・広報を行っており、19年度末には県の行政監査を受けて、県教委と共に学校諸費取扱マニュアルを編纂し発行した。しかし事務長会が先に走るほど現場では事務職員がついてこない。事務長会がやった仕事は事務長の仕事といった醒めた雰囲気があり、事務長会の研究成果を事務職員にどう繋げていくかも課題である。

### 2 職場内での後継者育成（研修）の現状

～佐世保中央高校における個人の取組(自己目標)から～

3課程（定時制昼間部・夜間部・通信制）がある事務室内の効率的な運営を図るため、共通の事務を集約して一元化を進めている。そうすることで余裕の時間が生ま

れ自己研修を促進することにも繋がると考えている。

また、事務職員が尻込みするような事務処理も、失敗をおそれずに実行させることが自信に繋がると信じて積極的にとり組ませている。また、日常業務に於いては根拠法令を尋ね確認し、単に前例踏襲にならないよう実践を通じての習得と根拠学習の定着に努めている。

### 3 後継者育成研修を行う上での課題

基本的には、研修は地公法第39条にあるように任命権者が行うべきもので、専門性を高める研修を充実させる努めがある。したがって研修にかかる参加料等の経費は公費負担が原則であると考えている。

また、学校の状況（離島等の小規模校）によっては研修会への参加機会が十分に確保できない等の問題も存在している。

### 4 職員への対応と後継者育成研修の在り方

学校事務職員の仕事や研修に対する意欲を向上させる為には、業務遂行において「やりがい」を感じさせることが大切であると考え。業務の目的が何であるかを十分に理解し、的確に業務を遂行することで生徒や職員に喜ばれ、「やりがい」も出てくるし、「やりがい」がテンションをアップさせる動機付けとなる。そのためには遅滞のない確実な執行をサポートしていくことが大切であり、特に最初からつまづかないように育成していくことが大事である。さらに職員自らが学びたいという意欲があるときに適切な指導助言を行うことが向上に繋がるので、できる限り研修の機会を確保することが必要である。また、事務分掌全般を早い段階で経験させ、図書館業務等を固定化しない配慮も必要だろう。

専門性の向上には、組織の理念や方針等の共通理解、個人の主体性や意欲、役割の認識、職員間の信頼関係と協働性、課題をふまえた研修の体系的・計画的な実施が必要である。あわせて、自己目標管理シートに基づいた指導育成を実施していくことも効果的であると考え。

最後に、現場からお願いしたいことは、まずは的確な人材の採用と新規採用者は教えられる環境の整った学校へ配置してほしい。できうるならば、教員の初任研と同じような指導職員の加配を望みたい。



# 随想 事務長が変われば 学校が変わる

島原農業高等学校長 龍山 不二男

朝登校するとM事務長さんが「昨晚仔牛が産まれたですよ」と、目を輝かして教えてくれました。同時にその時の様子とここ数日間の担当職員の熱心な勤務状況も知ることができました。事務長さんに立ち会ってもらった職員の喜びと感謝の気持ちが伝わる気がしました。

地域に居住するMさんからは、農場での早朝の葡萄の収穫、夕方からの草刈り、休日の稲刈り予定など農場の情報が入ってきます。農場長と同じぐらい農場のことを知っているのには驚いたものです。私としては、先を越されたと思う反面、散歩のコースを変更してでも見に行きたい気分になります。滅私奉公を見られた職員も悪い気はしないでしょう。

このように現場に足を運び情報を得る人は、農場経営だけでなく、職場の人間関係、施設・設備の状況、学校の隅々まで頭に入れていきます。教育環境整備の優先順位も常に考えています。隣接地、地域住民、学校に関わりのある人達のことにも短期間に知り尽くします。突然の来校にも慌てることはありませんでした。

農業高校には農業実習会計があり、農務職員はそれぞれ担当部門の収入予算をあげなければなりません。職員の多くは、生産管理は熱心ですが売るのが苦手です。時々売れ残ります。そんな時、事務長が率先して売りに協力すると事務職員も近所や親戚の分まで買って帰るようになります。Mさんが注文を取りすぎて足りなくなったこともありました。うれしい悲鳴です。農務職員の依存度は校長以上です。

学校のことを熟知し教職員のニーズに応える事務長と運命をともにできると学校経営は楽しく戦略的にやれるものです。

ご承知のとおり、農業高校の事務室は実に多忙な毎日です。そして、暗いイメージがあります。農産物販売価格の下落、生産資材や原材料費の高騰、農作物の風水害での被害、灌漑用水の枯渇、農機具の故障、水道管の破裂等、相談がない日はありません。農務以外からも相談

**編集後記** 今回、事務長会広報誌「ぼってん」の編集後記を書かされる?羽目になってしまいました。

本号の原稿依頼は、若いけどベテランのu kの事務長さんがテキパキとこなされ、残りは「編集後記」のみという状況が今です。もう、シルバーウィークも終わろうとしています。お尻に火が点いても熱くないほどの人間に成長した「私」ですが、今は焦っております。パソコンの前に座り、黄金の右手人差し指1本で滑らかにキーボードを叩いています。

ところで話は変わりますが「私」といえば本校の新聞部が作る新聞に何度か登場したんです。記事のない時の事務長頼みといわれ、つい木に登ってしまい「事務室から『こんにちは』」を寄稿しました。そこに事務室の一番奥の席に座っている「私」が登場するんです。小さい頃の話や「…は」と「…わ」の話など。沢山、子どもたちに話したいことがあって…。

話を戻して、今号の「ぼってん」のテーマの一つ《育てる》に関連した「私」が育てられた話です。わが校の子どもたちは、知的発

が寄せられます。担当者では解決できないときははいよいよ事務長の出番です。要は打ち出の小槌のようにお金と解決策が出てくるかどうかです。

私は事務職員のやる気は事務長次第だと思います。

目標を掲げ、悲観論や危機感ではなく明日への希望を語り、職員を使うのではなく動かしていると感じることがあります。

また、急を要するときは事務長が真っ先に駆けつける。忙しいときは気軽に窓口業務をし銀行にも行く。電話応対や授業料・諸費の督促もしてみせる。手助けが必要な場合は親身になって援助してやる。このようなことが、職員の多忙感を払拭し、明るく室内が整理された活気ある事務室へと変え、事務長候補を育てることにもなるのでしょう。

私がこれまで影響を受けた事務長さんの印象を思い出すままに書き出してみました。

- 先を読み、校長に提言し教頭をリードする。
- 過去を語らず自慢をしない。
- 部下のせいにはしない。
- 前例がなければ前例を作る。
- 予算獲得に秀でている。
- 仕事が迅速で即日報告する。
- 学校PRに熱心で、HPや新聞の企画に意欲的に関わる。
- 式典・公文書に精通している。
- 相手が誰であってもおかしいことには「ノー」と言う。
- 部活動振興に理解がある。
- 生徒の表情から、家庭の経済状況やいじめなどの悩みを読み取る。
- 祝賀会・懇親会の企画がうまい。
- 同窓会・PTA役員、地域住民から頼りにされる。
- 親身になって公私ともに職員の相談に乗る。
- 女性職員の信頼が厚い。

いろんなタイプがありますが、惜しまれて去りいつまでも心に残る事務長さんには共通して、仕事ができるのに常に周囲から学ぼうとする姿勢がありました。

教職員のやる気、学校活性化は事務長の影響力大です。事務長（の意識）が変われば学校が変わります。遠慮することなく大いに発言し教職員や生徒・保護者と関わりを持ってほしいと願っています。

達に軽度の遅れはあるが、自力で通学ができる生徒です。物事を裏や斜めからしか見れなくなっていた私にとって、目から鱗の子どもたちでした。夏の暑い日も、冬の寒い日も、風の強い日や雨の激しい日も休むことなく登校してきます。遠い子は片道2時間もかけて！バスとJRなど乗り換えてくる子も少なくありません。本当に頭が下がる思いです。まあ、たまにはいろいろありますが。可愛いですよ。「私」も子どもたちに負けないビュアな気持ちで『清く正しく美しく』生きていきたいと願っている今日この頃です。

またまた、話が横道に逸れてしまいました。最後になりますが、今回、本当にお忙しい中、本号への寄稿を快くお引き受けいただいた龍山校長先生をはじめ、事務長さん方には心からお礼申し上げます。

では、この後記がu kの事務長さんの検閲を無事通過できることを祈って、般若湯に浸りたいと思います。「私」の幼かりし頃のイメージを載せて終わりにします。

T a k a

